公益社団法人 化学工学会 システム・情報・シミュレーション部会　情報技術教育分科会

令和2年度　第19回プロセスデザイン学生コンテスト

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 応募部門 | | プロセスシミュレーション部門  「CO2を原料とするDMEプロセスの設計」 | | | |
| チーム | | ●●大学 ●●チーム | | | |
|  |  | 氏名 | 学年 | 所属 | |
| 代表者 | ○○ ○○ | M1 | ○○○○○○専攻 ○○○○○研究室 | |
|  | ○○○ ○○○○○○ | B4 | 工学部 ○○工学科 ○○研究室 | |
|  |  |  | (メンバーが4名以上の場合は、適宜、セルを増やしてください) | |
|  |  |  |  | |
| 設計に使用した  シミュレータ  (複数回答可)  ※該当箇所の□を■にする | | □Aspen HYSYS　　　　□Aspen Plus 　(アスペンテックジャパン(株) )  □gPROMS (ピーエスイージャパン)  □Pro/II (シュナイダーエレクトリック(株))  □Visual Modeler ( (株)オメガシミュレーション)  □COCO (http://www.cocosimulator.org, フリーソフト)  □その他(　　　　　　　　　　　　　)  □商用シミュレータを使用していない(自作プログラムを使用した場合や、エクセル等を使用した場合も含む) | | | |
| 使用した  物性推算モデル  (Fluid package) | | セクション名  ※2章で説明する順序で記入して下さい。  ex.)反応セクション, 分離セクション | | | モデル名  ※ プロセスシミュレータごとに名称が異なりますが、使用したシミュレータ上の表記で構いません。  ※ 第19回は、Predictive SRK式を指定しています。  ex.) PSRK, UNIFAC |
| ○○セクション | | |  |
|  | | |  |
|  | | |  |
|  | | |  |
|  | | |  |
|  | | |  |
|  | | |  |
|  | | |  |

|  |
| --- |
| 注意事項：  提出期限は2020年9月7日(月)　正午です。  学生コンテストエントリー時に送信されている「エントリー受付」という件名のメールに記載のURLにアクセスしてファイルをアップロードして下さい。  なお、上記の締め切り時間以降に事務局側で体裁のチェックを行います。不備がある場合にはメールにて連絡し、至急、修正を求める場合がありますので注意してください。  ★提出物一覧  　　□ プロセスサマリー (A3ヨコ置きまたはA4タテ置き版)  　　□ 表紙 (このWordファイルの1ページ目, A4タテ置き版)  　　□ 提出資料 (このWordファイルの2ページ目以降, A4タテ置き版)  ■プロセスサマリー  ● 上下左右余白、ページ番号の取り扱いは、次の「提出資料」に準じます。図表中の文字が小さくなりすぎない様に注意して下さい。  ● プロセス全体のBlock Flow Diagram(BFD), Process Flow Diagram(PFD)、マテリアルバランスを記載して下さい。サンプル(summary\_sample\_v1.pdf)を提供していますので、参考にして下さい。  ● PFDは、プロセスシミュレータの出力画面やキャプチャー画面ではなく、別途作成すること。PFD作成にあたっては、MS VisioやDIAなどを使用すると専用のステンシルが用意されており、描きやすい。  　　　　　※DIA(フリーソフト)：　http://mrs.suzu841.com/tebiki/app/dia/  ●　サマリーは、下記の表紙や提出資料とは別ファイルとし、PDF化して提出してください。(PDF化できない場合には、事前に問い合わせをお願いします。)  ■表紙  ● 上下左右余白、ページ番号の取り扱いは、次の「提出資料」に準じます。  ● 「提出資料」をMS Word以外のソフトウェアで作成する場合でも、表紙部分については、このファイルに記入して、MS Wordファイルのまま提出して下さい。  ■提出資料  ● 左右余白： 20 mm, 上余白: 20 mm, 下余白: 30mm。なお、下余白部には何も記入しないで下さい(コンテスト事務局側でページ番号等を挿入します)  ● ページ番号は、コンテスト事務局側で変更しますので、文中で参照する際は「△ページに記載の〜」ではなく、「2.4節の図5に記載の〜」などのように章節番号や図表番号で記述して下さい。  ● 章立ては、説明しやすいように変更して構いませんが、不足のないように注意して下さい。  ● 提出資料の提出ファイル形式等   * MS Wordを使用して資料を作成する場合は、そのまま書き込んで構いません。すでに記入してある説明文は、適宜、削除して下さい。また、提出前には、この赤枠も削除して下さい。提出時には、**PDF化したものとMS Wordファイルそのものの両方**を提出して下さい。   ○MS Word**以外**のソフトウェアを使用する場合は、余白等の制限を必ず守った上で、PDF化して提出してください。また、1ページ目(表紙)は本ファイルを用いて作成し、MS Wordファイルのまま提出して下さい。  ※　設計結果の提出にあたっては、課題に記載された評価基準と設計範囲をよく考慮すること。   * 提出された資料は、コンテスト終了後に公開する場合がありますので、ご了承ください。 * 2012年度の資料の一部(優秀賞以上のチームの資料)を以下のURLで公開しています。http://altair.chem-eng.kyushu-u.ac.jp/scej\_contest2012/download.html |

※「もくじ」を付す場合には、章、節番号で記述し、ページ番号を明記しないで下さい。(ページ番号は事務局で付すため、ずれてしまいます。)

1. プロセス概要

(最終的に得られたプロセス設計案の概要を説明してください。)

**1.1 設計方針および設計案の特徴**

「設計方針」、「設計案の特徴」を明確に述べて下さい。

**1.2 ブロックフローダイアグラム(BFD)**

ブロックフローダイアグラム(BFD)を作成し、各ブロックにはブロック名を記し、ブロック間のストリームには主な成分名, 温度, 圧力, 気相or液相, 流量を明記して下さい。

**1.3 各セクション(ブロック)の概要**

BFD上の各ブロック(セクション)について、簡潔に説明して下さい。

**1.4プロセスフローダイアグラム**

※制御系は記述不要です。

・各機器には、機器番号 or 機器名称(反応器, 蒸留塔, 熱交換器, ポンプ, コンプレッサー, バルブなど)を明記して下さい。

・機器間の接続(Stream)には、ストリーム番号 or ストリーム名を明記して下さい。

・主なストリームには、ストリーム上に圧力, 温度を記述して下さい。

**1.5 物質収支表**

各セクションや各プロセスユニットの物質収支(流入/流出の流量(kmole/h, kg/hの両方の単位系で), 組成, 温度, 圧力等)、エネルギー収支、運転操作条件等も表を用いて明記する。

2. 各セクションの詳細

(セクションごとに以下の様式で詳細を記述してください。数セクションを適宜まとめてもよい)

**2.x ○○(セクション名)**

2.x.1 セクションの概要

セクションの概要、設計方針、特徴など

2.x.2 セクション内の各プロセスユニットの詳細

●プロセスユニットの設計方針や設計根拠を明確に示してください。

●代替案がある場合には、それらを比較・検討した過程が分かるように説明してください。

●各プロセスユニットの詳細(プロセスデザインコンテスト課題「5.設計上の注意点」参照)を計算の過程がわかるように記述して下さい。

　　すなわち、以下の項目を含むこと。

* 反応器: 反応器タイプ, 反応器サイズ, 入口/出口条件(組成, 温度, 圧力, 気(液)相率)や反応器内部の運転操作条件
* 蒸留塔などの塔槽類：段数, 操作温度(塔頂, 塔底), 操作圧力
* 熱交換器：伝熱量, 総括伝熱係数, 高温流体/低温流体それぞれの入口/出口条件 (温度, 圧力, 気(液)相率)
* 回転機(ポンプ, コンプレッサ等):所要動力, 電力や所要蒸気量, 入口/出口条件(温度, 圧力, 気(液)相率)

3. ユーティリティシステム

●プラント全体の使用量およびその内訳(使用する機器番号/機器名や機器ごとの使用量)をユーティリティの種類(冷却水, スチーム, 電力, 冷媒 etc…)や(スチームや飽和水の)圧力レベルごとに整理して下さい。

●設計したプロセスのCO2排出量を求め、最大許容CO2排出量と比較してください。

※プロセスデザインコンテスト課題の「Appendix:ユーティリティスティームのCO2排出原単位の計算」や「4.プロセス設計課題」「5.設計上の注意点」等を参考に計算根拠がわかるように表でまとめること。"CO2排出量に加算する"ように指示した箇所をもれなく加算すること。

4. 技術的なブレークスルー

●最大許容CO2排出量 ≦ 設計案のCO2排出量の場合：

課題の「6.最大許容CO2排出量を満たせなかった場合」を参考に、クリティカルな操作や技術的なブレークスルーについて記述してください。

●最大許容CO2排出量 > 設計案のCO2排出量の場合：

設計したプロセスでCO2排出量の削減に大きく寄与したと思われる技術や設計・操作等をアピールしてください。

●共通：

上記の技術的なブレークスルー以外にも、設計や設計方針の妥当性、検討した代替案など、1〜3章までに記述出来なかった事柄や、特にアピールしたい内容等を自由に記述して下さい。図や表を用いて構いません。